

事業コード	H17-建-継-2		区 分	国庫補助 県単独
事業名	都市計画街路事業		部局課室名	建設交通部 都市計画課
事業種別	一種改築(現道拡幅)		班 名	街路班 (tel) 018-860-2444
路線名等	都市計画道路 秋田駅東中央線		担当課長名	高松 正彦
箇所名	秋田市手形		担当者名	主幹兼班長 有明 滋夫
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	01	施策名	四季を通じて快適な生活環境の確保
	指標コード	03	施策目標(指標)名	都市計画道路整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	H15 ~ H19 (5年)		総事業費	28.6億円	国庫補助率	5.5/10
事業規模	延長L=605m 幅員(構成)W=31.5m(6.0-1.5-3.25*2-0.5-4.0-0.5-3.25*2-1.5-4.5)					
事業の立案に至る背景	本路線は、県都秋田市の玄関口である秋田駅東口と市街地環状道路の横山金足線を経て、秋田中央ICを結び、秋田市の都市の骨格を形成する重要な路線である。秋田駅東口拠点センターや駅前広場へのアクセス道路である本路線は、現在整備中である秋田中央道路の供用によって大幅な交通量の増加が推測されることから、ボトルネックとなっている当該区間を拡幅し、快適で安全な通行空間を整備するものである。					
事業目的	秋田駅東口駅前広場と一体となった交通結節機能の向上 市町村合併支援 秋田中央ICへのアクセス機能の強化 歩道のバリアフリー化 秋田駅東拠点地区や秋田駅東地区のまちづくりを支援					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		2,860,000	2,860,000	0	
	経費内訳	工事費	810,000	660,000	-150,000	無電柱化の整備方針見直し
		用補費	1,883,300	2,045,000	161,700	建物調査等の結果による
		その他	166,700	155,000	-11,700	
	財源内訳	国庫補助	1,311,200	1,166,550	-144,650	
		県債	1,285,000	1,410,000	125,000	
		その他	171,600	171,600	0	
		一般財源	92,200	111,850	19,650	
	事業内容		調査設計 用地補償 街築工	調査設計 用地補償 街築工		
事業の進捗状況	平成16年度に補助採択され、進捗率は34%と計画以上に進捗している。					
事業推進上の課題	事業中の秋田中央道路の供用にあわせて完成させる必要がある。					
関連する計画等	あきた21総合計画の施策「快適で安全な生活を支える環境づくり」に位置づけられている。 秋田都市計画区域マスタープランにおいて概ね10年以内に整備する施設に位置づけられている。 秋田中央道路整備事業 秋田駅東拠点地区土地区画整理事業 秋田駅東口まちづくり総合支援事業					
情勢の変化及び長期継続の理由	秋田中央道路の計画により、秋田市中心部から高速ICへのアクセス機能の強化にも寄与する路線となっている。 秋田駅東口地区の拠点センター、駅前広場の整備が完成し、同路線の早期整備が望まれている。 平成19年秋田国体の支援につながる。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	都市計画道路整備率				
	指標式	= 整備済延長 / 都市計画決定延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	60 %		データ等の出典	都市計画年報	
	実績値 b	48 %				
達成率 b/a	80.0 %		把握の時期	平成17年9月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項 ボトルネックの解消は緊急性が認められ事業要望は妥当と考える。平成17年度以降の国庫補助対策が想定されているが、16年度からの採択に向け最大限努力すべきである。
	指摘事項への対応 補助採択要望の結果、平成16年度に補助採択となった。

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	秋田市の都市の骨格を形成する重要な路線であり、他に機能が競合する路線や事業は存在しない。 当該区間より秋田中央IC側は4車線化済みであり、当該区間がボトルネックとなっている。 秋田中央道路、秋田駅東口拠点センター、秋田駅東口駅前広場の整備に関連し、必要性は高い。	32点
緊 急 性	「あきた21総合計画」における快適で安全な生活を支える環境づくりに資する事業であるほか、「秋田都市計画区域マスタープラン」の中でも概ね10年以内に整備すべき路線として位置づけられている。 市町村合併支援道路の指定を受けている。 接続する秋田中央道路の供用とあわせなければ、円滑な交通に支障が出る。	14点
有 効 性	拠点センターアルヴェ、秋田駅東口駅前広場が既に完成しており、アクセス道路である同路線の整備により駅東地区の活性化や交通結節機能の向上を支援する。 桜台ニュータウン等からなる宅地開発を支援する。 歩道のバリアフリー化により高齢者や障害者の通行の安全性を向上させる。	15点
効 率 性	事業の費用便益比は2.30であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 27億円 ・総便益の現在価値 63億円 暫定施工による事業費の縮減。 拡幅に併せて電線類を地中化することで、快適性、都市景観、通信ネットワークの信頼性向上などが見込まれるほか、無電柱化事業のコスト縮減にもなり効率性は高い。	18点
熟 度	用地補償は順調に進捗しており、平成17年度に用地買収が完了予定である。 交通の円滑化のため秋田中央道路の供用にあわせる必要がある。	15点
判 定	ランク ( ) 秋田駅東口と秋田中央ICを直結する路線であり、また市町村合併支援道路にも位置づけられるなど、必要性・有効性が高いことから引き続き実施すべき事業である。	94点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。
---------------------------

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。
--------------

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 街路事業

事業コード(H17-建-継-2 )  
箇所名 (秋田市手形 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要				
必要性	交通状況の変化 (バイパス・新設路線につ 現況道路の交通量変動(自動車・歩行者)	増加している	15	12					
		現状維持	12						
		10%未満の減少	10						
		10%以上20%未満の減少	8						
		20%以上の減少	5						
	今後の進捗の見込み 事業執行上の課題の有無	課題もなく順調な進捗が見込まれる	10	10					
		課題はあるが事業の進捗に大きな影響はない	8						
		将来的な課題はあるが当面の進捗に影響はない	5						
		課題解決の見込みがなく、停滞している	0						
	事業中止又は休止による影響 事業を中止・休止した場合の成果に対す	代替手段がなく、影響が大きい	10	10					
代替手段はあるが、影響が大きい		8							
代替手段があり、影響が小さい		3							
計			35	32					
緊急性	関連事業の有無	各種プロジェクト支援 (県の主要プロジェクト・地域振興プロ	有り なし	1 0	1				
		大規模イベント支援 国体・インターハイ・万博など	有り なし	1 0					
		新規整備の公共公益施設アクセス 市町村役場・病院・学校・公民館など	有り なし	1 0	1				
		他公共事業関連 (街路事業以外の事業支援)	有り なし	1 0					
		住宅地開発 (300戸以上又は16ha以上)の連絡	有り なし	1 0	0	0			
		事業を取り巻く周辺状況(需要)の変化 現況に対する将来交通量	増加する(5%以上) 変化なし(±5%未満) 5%以上10%未満の減少 10%以上20%未満の減少 20%以上の減少	10 8 7 5 3			10		
		計			15	14			
		有効性	物流の高度化と交流の円滑化への貢献度	高速ICアクセス	該当項目2以上	5	5		
				港湾・空港アクセス	該当項目1	3			
				新幹線駅又は特急停車駅等( )へのア 特急停車駅又は平均乗降客2000人/日	該当項目0	0			
主要な観光地へのアクセス									
駅前広場の造成									
市街地の活性化とまちづくりへの貢献度	DID区域内の事業			該当項目2以上	5	5			
	市街地再開発・区画整理等との連携			該当項目1	4				
	電線類地中化計画			該当項目0	2				
	景観や中心市街地の特色あるまちづくり バリアフリー								
	周辺景観との調和 道路緑化の推進 3次医療施設・2次医療施設へのアクセ								
県施策目標への貢献度 都市計画道路整備率の向上	平成19年度末までに供用予定	5	5						
	平成22年度末までに供用予定	4							
	平成23年度末以降供用予定	3							
計			15	15					
効率性	当初計画と比べた事業費の増減 都市計画事業認可時の全体事業費との増	減少している	10	8	全体事業費の増減率 都市計画法第59条又は第				
		10%未満の増加	8						
		10%以上30%未満の増加	7						
		30%以上50%未満の増加	3						
		50%以上の増加	0						
	費用便益比	費用便益比	2.0以上 1.5以上2.0未満 1.0以上1.5未満 1.0未満	5 4 3 0	5				
		コスト縮減・リサイクル推進貢献度	廃棄物の発生抑制、再資源化及び適正処 リサイクル製品、再生骨材等の使用	該当項目2以上			5	5	
			新工法・新技術の採用	該当項目1			3		
			その他(具体的事例)	該当項目0			0		
	計			20	18				

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 街路事業

事業コード(H17-建-継-2 )  
箇所名 (秋田市手形 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
熟度	都市計画事業認可に対する事業の進捗状況 事業認可書の予算計画に対する執行状況	計画以上に進捗している	10	10	
		計画に対して80%以上100%未満	8		
		計画に対して60%以上80%未満	6		
		計画に対して50%以上60%未満	4		
		計画に対して50%未満	2		
	地域の協力体制 事業推進のための各種協議会等が設置さ 地域住民の取り組みが積極的である 市町村自ら積極的に用地交渉など事業の 買い取り請求が複数ある 裁決申請(予定を含む)物件がない 計	該当項目3以上	5	5	
		該当項目2	4		
		該当項目1	3		
		該当項目0	0		
		計	15		
合計			100	94	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		